

# 『今後の老人福祉について』

## 第4回月潟村社会福祉大会

第四回の福祉大会が二月十八日、月寿荘で行われ、大勢の人たちが集まりました。今回の大会は、「これから老人福祉について」を課題に、二人の事例発表をはじめ西蒲原社会福祉事務所長からの講評、午後からは、「つばめ福寿園の後藤先生から」在宅



▲当日は、約100人もの方が集まり、老人福祉について考えました

福祉の時代」とした内容の講演をして頂き、一日をおして「老人福祉」についてみんなで考えた一日となりました。左記では、大会の内容についてご紹介していきます。なお、文章そのものについては一部省略しています。

◀魅力あるクラブづくりのためにも、工夫が必要でありますし、村の方も積極的に考えてほしい。



(月潟 道見さん)

事例発表  
月潟 道見 秀雄さん  
私が第二長生会の会長になり約三年の体験であります。昭和六十三年に会長になるとちよど会員の死亡者が多くでしてしまいました。老人クラブは老人の団体でありますので、当然他の団体よりは死亡者が多いわけでありまして。そのため会員の新規加入促進を他の団体よりも一生懸命にやらないと、団体の維持が難しいこととなります。会員あつての団体でありますので、会員の新規加入を真剣に考え努力しなければと思ひ、役員と相談しても名案があるわけでもありません。未加入者を一軒ずつ廻って加入をお願いす

ることになりましたが、「老人会」というと年寄りくさい名前前の会に加入したくない」「加入してもメリットがない」「老人クラブに魅力がない」「家の仕事があり、加入しない」という理由で加入してくれませんでした。廻つてみて考えさせられたことは、喜んで加入してくれるような魅力ある老人クラブでなければならぬということでありました。

会員が喜んでくれるようなクラブ活動、それには何をすればいいか、これが第一の問題点です。それをやるために当然、財政の裏付けが必要であり、これが第二の問題点です。老人クラブの毎年の決算書を見て、今までの状態で一杯であり、余裕がありません。

収入の元である会費の値上げは困難です。また、村の補助金は毎年同額で増加しません。そんなとき、昨年、西蒲老人クラブリーダー研修会で黒崎町のクラブが、簡易保険の集金をクラブで行い、郵便局から集金手数料を頂き、それをクラブの活動資金に充てていることを聞きました。偶然、私たちのクラブ区域内の

簡保団体が解散することになり、その責任者に私たちの老人クラブに任せてくれないかとお願いし、了解を得ました。ようやく今年一月分から集金を始めました。この集金手数料は村の補助金の約二倍の十二万円近くになり、老人クラブの財政は非常に助かります。この金をクラブの有効利用に使い、魅力あるクラブづくりになると期待しています。

また、会費は全員からではなく、この集金手数料のおかげで、寝たきり・高齢者からの会費は頂戴しないことも考えています。

老人福祉の基幹である単位老人クラブを活性化することが、老人福祉の促進となりまして、財源としての村の補助金の増額をお願い申し上げます。私の体験発表とします。

下曲 藤村 義一さん

私は、「脳硬塞」の経験者です。昭和六十一年三月に発病してからもう五年近くになります。

人間誰れしもが、ある程度の年齢になると自分の健康に不安をもつてくるものです。

その代表的なものに「がん」「脳疾患」つまり中気があります。そこで私の体験を申し上げて、一人でも二人でも早目に体の異常に気が付き、病気が軽くなるでくれたら本当に嬉しいです。

ご承知のとおり脳卒中は、軽くすめばそれほど異常は残りませんが、重症の人は、数日中で死亡したり、比較的軽い症状の人で命を取りとめたとしても「寝たきり」になつて床につき、最終には亡くなつてしまふといったことになつてしまいます。

これらの病気には、それぞれ必ず前兆があるということ。ところが、この前兆は

それほど痛みを伴わず、そのためにつかりして安易に考えているだけで、その後、急に倒れて騒ぎ出すというのが一般的な例です。私も倒れるところまでいかなかったですが、半日か一日遅れていたら倒れていたと思います。

その人その人によつて、前兆は違つて個人差があるようです。中には、「肩がこつてどんな治療をしてもだめで、医者に脳の精密検査をしてもらつたら「脳硬塞」の初期症状だった」という例があります。また、本人が気が付かなくても周囲の人が異常だと気が付いて病気の早期発見ができたという例もあります。こ



▲老人福祉の基本は、健康で各人が余生を楽しく過せること、そのためにも、健康管理に十分な注意を。(下曲通 藤村さん)

うしたように、少しでもいつもと違うと感じたり、異常だと感じたときこそ、迷わず専門医に相談して診察してもらうことが大切です。

人間の体は、生まれつき自然に治療能力が備わつていて、健康であればあるほど少しづつらいの病気には負けないようになつていくのですが、偏食や好き嫌い、暴飲暴食、不摂生をしていたりすると、つまらない病気に負けてしまうことになるそうです。いつも健康な状態に体力を保つていくことが大切です。

私の脳硬塞のときも、自分でいつもと少し違ふと感じて診察してもらつたおかげで、早期治療ですんだのです。みなさんも早期発見・早期治療を十分理解していただく方がいいと実感しています。病気がなつて騒がないように注意して、病気が軽くなるように各人が常に健康に努力することが本當の福祉であると思ひます。

老人の福祉というものは、どうにもならなくなつて助けを求めるとき、老齢に伴つて心身の変化を各人が自覚して常に心身の健康を保持することに努め、余生を健康に過す



### 「在宅福祉の時代」

つばめ福寿園  
後藤 孝志 先生

特別養護老人ホーム（寝たきり者などが入所する施設）つばめ福寿園の生活指導員、後藤孝志さんから「在宅福祉の時代」と題して講演を頂きました。

講演の最初は、福寿園で行われている特殊なジャンケンが始まり、「ボケ防止」に効果があるというそうで会場の人たちもチャレンジ、めずらしいジャンケンを体験しました。

後藤さんの講演は、ビデオを使って福寿園入所者の一日

今、「高齢者保健福祉推進十か年戦略」など、在宅福祉サービスの拡充を行政サイドで図つていきます。しかし、真の老人福祉は、「いかに、第二の人生に生き甲斐を創つていくか」「いかに、心身の健康を保つか」のための個人の自覚と地域社会の理解が必要と、今回の大会を通じて改めて感じられました。